

養育者との相互交渉を基盤とした定型発達幼児と自閉スペクトラム症幼児の初期言語発達

溝江 唯 東京学芸大学特別支援教育・教育臨床サポートセンター

要 旨：養育者と幼児の相互交渉は、日常生活における注意の共有や社会的なやり取り、言語的相互交渉が行われる自然な場面である。養育者は自然な相互交渉の中で、幼児の発声や発話に言語的にフィードバックを与える等、幼児の言語・コミュニケーション発達の足場かけを行っている。本稿では言語獲得初期段階の幼児と養育者の相互交渉に関する知見をまとめるとともに、言語・コミュニケーション発達に支援ニーズのある自閉スペクトラム症(ASD)幼児の共同注意、養育者との相互交渉の特徴に言及し、養育者を介した ASD 幼児への言語・コミュニケーション発達支援の現状や課題を考察する。

Key Words： 初期言語発達、自閉スペクトラム症、共同注意、相互交渉

I. 共同注意と初期言語発達

乳児は社会的相互交渉のパートナーである養育者との関わりを通して、様々な社会的情報を獲得していく。乳児は生得的に人への指向性を有しており、生後数日で、顔への視覚的選好を示す¹³⁾。さらに、乳児は養育者の顔と見慣れぬ顔とを区別し、養育者に対して、他者よりも長い注視や微笑を示すようになる⁷⁾。このような生得的に備わる乳児の養育者に対する特有の行動は、「幼児－養育者」という二項関係を効果的なものにする³⁴⁾。この時期における養育者の幼児に向けた語りかけは、高いピッチや誇張した抑揚、ゆっくりとした語り、語彙の繰り返し、単純な文型といった特徴をもち、育児語(Child Directed Speech)やマザリーズと呼ばれている³¹⁾。このような語りかけは幼児の注目を引きやすく³³⁾、幼児との対面的な二項関係を促進する。対面的な相互交渉の際に養育者は、幼児の発声や注視、微笑などを、間主観的に意図のあるコミュニケーションにとらえ、幼児の発声に対し肯定的な反応を返す。また、幼児と養育者の視線が結ばれた線上に、養育者が事物を提示し、それを幼児が見つめるという経験がおこる。大藪³⁵⁾はこのような状態を「対面的な共同注意」と呼び、共同注意の前駆的な能力と位置付けている。一方、幼児は生後 6 か月ごろになると、玩具に手を伸ばす、玩具を掴む、わざと落とすなど、自身で操作できる事物に対し関

心を持ち、能動的に探索を始め³⁴⁾、「幼児－事物」といった二項関係をとるようになる。このように、幼児は人や事物との二項表象⁴⁾を芽生えさせ、その後の三項関係における共同注意の発達的な基盤を構築している³⁴⁾。

幼児は生後 9 か月ごろになると、自身、養育者、第 3 の事物を介した三項関係での相互交渉が可能となる³⁴⁾。Carpenter, Nagell and Tomasello⁸⁾は、幼児は 9 か月から 15 か月の間に、他者の注意を確認すること、他者の注意に追従すること、他者の注意を自身の興味を持っている事物に向けさせることができるようになると述べている。村上・大神³⁴⁾は幼児の指さしの発達について質問紙による調査を行った。その結果、指さしへの追従は 8 か月、指さしの追従に伴う養育者への参照視は 11 か月、興味を持ったものを養育者と共有しようとする叙述の指さしは 12 か月に約 50%の幼児ができるようになることを示した。また、幼児は 16 か月になると、指さしを行う前に養育者の視線を確認していることも明らかにされている¹¹⁾。このように、幼児は他者と共同注意を行いながら、他者の注意の方向の理解や、他者の意図理解を発達させている。

共同注意の発達は、初期の言語獲得の基盤となる。幼児が新しい語を獲得するときや、事物についての新しい情報を得る際には、幼児は情報を与える大人が注意を向けている事物は何か、また、事物のどの側面に対して注意を向けているのかといった大人の注意の方向や意図

を読み取る必要があると考えられる⁵⁰⁾。そのため、幼児の言語発達において、共同注意は重要視され、多くの研究が行なわれている。例えば、Baldwin⁵¹⁾は、大人が新奇な言葉を言った時に、18か月から19か月の幼児は大人の視線を追随し、新奇語と大人が見ている物を結び付けることを明らかにしている。このことは、18か月から19か月の幼児は他者の視線がもつ意味に気付き、相手の注意に自身の注意を合わせることができることを示している。また、Tomasello and Barton⁴⁴⁾は24か月の幼児に対し、「トマを探す」と伝えてから、幼児にとって新奇の物品が入っている5つのバケツの中を探す実験を行った。幼児は5つの物品のうち、大人がバケツから取り出した時に笑顔を見せた物品について、「トマ」という新奇語と結び付けて語彙の学習を行ったことを明らかにした。幼児は共同注意を通して、他者の注意の方向を読みとり新奇な言葉と事物を結びつけることや、他者の意図を読み取りながら、それに合わせて語彙を獲得していくと考えられる。このような知見から、幼児の初期言語発達においては、養育者との共同注意を基盤とした相互交渉が重要であると言える。本稿では言語獲得初期段階の定型発達(以下TD)幼児及び、言語・コミュニケーション発達に支援ニーズのある自閉スペクトラム症(以下ASD)幼児と養育者の相互交渉に関する知見をまとめるとともに、ASD幼児を対象とした言語・コミュニケーション発達支援の現状や課題を考察する。

● II. 幼児の言語・コミュニケーション発達と養育者との相互交渉

養育者と幼児の相互交渉は、注意の共有や社会的なやり取りや言語的相互交渉が行われる自然な場面である。幼児の言語・コミュニケーション発達を促す養育者のかかわり方について多くの研究がなされている。

養育者の語りかけの頻度や使用する語彙のレパートリーの豊富さが幼児の言語発達を促進していることが明らかにされている。例えばHoff and Naigles¹⁶⁾は、養育者の発話の量、語彙の豊富さ、構文の複雑さが2歳児の語彙獲得と正の相関があることを示した。また、養育者から様々な統語的文脈で使用例を聞いた動詞ほど、幼児がその動詞を獲得しやすいことも報告されている³⁰⁾。さらに、養育者からの言語入

力のみならず、言語発達の基盤となる共同注意の観点からも検討がなされている。Tomasello and Farrer⁴⁵⁾は養育者と幼児による注意共有の長さや幼児の語彙量に正の相関があること、また注意共有の時間が長いほど、養育者の発話量が多いことを指摘している。また、低出生体重児を対象とした研究では、養育者が幼児と注意を共有することが1歳時点の言語性IQと関連していることを明らかにし、発達にリスクのある幼児においても、養育者との相互交渉場面において注意を共有することの重要性を示している¹⁰⁾。

このように共同注意は、初期の語彙獲得や言語発達に重要な働きをもつことが示唆されており、幼児と注意を共有するための養育者の方略も検討されている。養育者と幼児が注意を共有する時には、①幼児の注意の焦点に養育者が合わせる場合、②幼児が養育者に働きかけ、養育者が応答し注意を共有する場合、③養育者が幼児の注意を切り替えて注意を共有する場合がある。研究の知見からは、幼児の注意を大人が示した物に向けさせてから物の名称をラベリングするよりも、幼児が見ている物について、ラベリングをした方が語彙の学習が促進されることが示されている⁴⁶⁾。また、矢藤⁴⁹⁾は、養育者が幼児の注意を切り替えて注意を共有する養育者主導の注意の共有よりも、幼児が養育者に働きかけ養育者が応答し注意を共有する、幼児主導の注意の共有の方が注意共有の継続時間が長いことを明らかにした。McDuffie and Yoder²⁵⁾は、養育者が幼児の注意を再方向付け(redirect)することについて、幼児が自身の注意を養育者の注意に向けなおす必要があると述べ、幼児の後の言語発達にはネガティブな関連があることを示した。

また、幼児の言語及び、非言語コミュニケーションに対して養育者が応答することの有効性が示されている。幼児からのコミュニケーション行動に対する応答として、言語的マッピング⁵²⁾と拡張模倣(expansion)⁴⁰⁾があげられる。言語的マッピングは、幼児の物を見せる行動や指さしといった非言語のコミュニケーション行動に対して、大人が言葉がけをすることである。大人は幼児から非言語のコミュニケーション行動を向けられた時に、幼児の意図を推測しながら応答をしている^{25, 41)}。言語的マッピングの際に養育者は、幼児が示した事物に対し、名詞、動詞、機能語で返している。発達の遅れを持つ幼児を対象とした研究では、養育者の言

語マッピングと幼児の言語発達において有意な相関が認められている⁵¹⁾。拡張模倣は幼児が発話をした内容について、意味的・文法的に拡張をして幼児に応答することである。例えば幼児が犬を見つけて「ワンワン」と言った時に、養育者が「ワンワンいた」、「おおきいワンワン」と幼児に応答するといったことである。

ここまでをまとめると、幼児との相互交渉場面において、養育者の言語入力の種類とレパートリーは重要であり、また、幼児の注意の方向に合わせて働きかけをしたり、幼児の言語及び非言語コミュニケーションに対して言語的に応答したりすることが言語発達初期の幼児の言語・コミュニケーション発達に有効に作用することが示唆されている。養育者は幼児との共同注意を基盤とした相互交渉を通して、言語発達を促す足場かけ(scaffolding)を行っていると言える。

幼児は語彙獲得と並行して、発話を連鎖させるようになっていく。22～25か月に接続助詞「て」を使用して発話を連鎖させるようになり、3歳～6歳にかけて、徐々に従属節(例:～から、～たら)や接続形(例:～だからね)を使ってまとまりのある表現、語りを産出するようになる³²⁾。初期の語りを行う4歳台においては、聞き手が「それ?」「それから?」といった言葉をかけ次の発話を促す様子が見られ、語りの成立に移行する過程に会話との中間段階がある¹⁵⁾。幼児の発話内容を精緻化させるような発話をする養育者の幼児の方が、幼児の話に回答するのみの養育者の幼児よりも、多くの情報を含めて語ることが明らかにされており¹¹⁾、語連鎖から語りへの移行期においても、養育者との相互交渉が足場かけになっていると言える。

● Ⅲ. 自閉スペクトラム症幼児の共同注意と初期言語発達

DSM-5²⁾では、ASDは社会的コミュニケーションの障害および限定された反復的な行動、興味によって定義されており、幼児期においては共同注意の困難さが指摘されている。Mundy, Sigman and Kasari²⁸⁾は知的障害児とASD児を対象に主に非言語的な共同注意スキルの比較を行った。その結果、知能指数や精神年齢、言語レベルを統制させたどの条件間においても、ASD児は共同注意のスキルの低さが認められた。このことにより、共同注意の困難さは

ASD特有のものであることが明らかにされた。また、ASD幼児は定型発達(以下TD)幼児と比較して、指さしの獲得が遅れることが示されている。指さしを獲得した幼児においても、そのほとんどが欲しい物を要求する「要求の指さし」であり、興味の共有や情動の共有といった「叙述の指さし」がほとんど見られないという報告がある¹⁷⁾。このような知見から、共同注意はASDのスクリーニング検査や診断においてチェック項目として取り上げられている。ASDのスクリーニング検査であるM-CHAT(乳幼児期自閉症チェックリスト修正版:The Modified Checklist for Autism in Toddlers^{18, 19)}においては、要求の指さし、叙述の指さし、物を見せる行動、応答的共同注意等、共同注意に関する質問項目が取り入れられている。また養育者への質問紙である日本語版SCQ(対人コミュニケーション質問紙: Social Communication Questionnaire)²¹⁾や、半構造化面接法であるPARS-TR(親面接式自閉スペクトラム症評定尺度テキスト改訂版: Parent-interview ASD Rating Scale-Text Revision)²⁰⁾にも共同注意の項目が取り入れられている。また、ASDの診断ツールである、日本語版ADOS-2(Autism Diagnostic Observation Schedule Second Edition)²²⁾においても、低年齢の幼児を対象としたモジュールにおいて、観察項目に共同注意が取り入れられている。

ASD幼児は共同注意の獲得の遅れから、初期の言語発達が遅れることが指摘されている²⁷⁾。Baron-Cohen, Baldwin and Crowson⁴⁾は、新奇語を聞いた際に、知的障害児の70.6%が話し手の視線を追い、新奇語と事物の正しいマッピングを行ったことに対し、そのようなASD児は29.4%であったことを明らかにした。相手の視線を追うことの欠如が、言語発達のリスクの要因になると述べている。また、Mundy, Sigman and Kasari²⁸⁾はASD幼児の非言語的な共同注意のスキルが後の言語発達を予測するというに加えて、初期の言語レベルが後の言語発達を予期しないことも明らかにし、言語発達における共同注意の重要性を示した。

このように、ASD幼児においても共同注意と言語発達が密接に関連していることが示されている。また、子どもと大人が同じ対象に焦点を合わせて相互交渉を行うことを共同のかかわり(joint engagement)と言うが、養育者は幼児との共同のかかわりの最中に、幼児の注意や行為に合わせた発話を多く行うことが明らか

にされている⁶⁾。ASD 幼児は養育者の相互交渉において、一人遊びが多く養育者等に向けた遊びの頻度が少ないこと⁴⁸⁾、遊びのレパートリーに制限を持つこと^{26) 48) 56)}が指摘されており、遊び場面において、ASD 幼児は養育者から言語的フィードバックを受けにくい可能性が考えられる。

このようなことを踏まえると、ASD 幼児にとって、相互交渉のパートナーである養育者の働きかけは重要であると考えられる。Siller and Sigman⁴¹⁾は、幼児の注意や活動に合わせて働きかけをすることが多い養育者の ASD 幼児は、そうではない養育者の ASD 幼児よりも、言語発達が良好であると明らかにした。また、Siller and Sigman⁴²⁾は、養育者が ASD 幼児の注意や活動に合わせて働きかけをすることが、ASD 幼児が養育者の注意の方向に従うことと同程度に、後の言語発達に影響を与えていることを明らかにした。また、ASD 幼児において、共同のかかわりは、幼児のもつ共同注意のスキルよりも、後の表出語彙や社会的コミュニケーションに関係することが認められている^{1) 6)}。また、拡張模倣のように、養育者が幼児の発話に対して応答的に関わることの有効性も指摘されている²⁵⁾。

これまでの研究で明らかにされているように、相手の視線に追従することに困難があり、養育者との共同のかかわりが少ないといった特徴をもつ ASD 幼児にとっては、大人が幼児の注意の焦点に合わせて働きかけをすることや養育者のサポートによる共同のかかわりが社会的コミュニケーション発達や、言語発達を促進していくものとして重要であると考えられる。

● IV. 言語・コミュニケーション発達への支援・介入法

ASD 児を含む言語・コミュニケーション発達にニーズのある子どもへの介入法には、発達研究からの知見に基づき人との自然なかかわりの中で言語・コミュニケーション発達を促す発達論的アプローチや、行動理論に基づく行動論的アプローチがある。専門家が幼児に直接的に指導するものではなく、養育者に介入し、関わり方を指導する発達論的なアプローチとして、INREAL アプローチ⁴³⁾、Hanen Program⁹⁾、ふれあいペアレントプログラム³⁶⁾が挙げられる。INREAL アプローチは、「SOUL:Silence(静

かに見守る)、Observation(子どもの表情や行動を見守る)、Understanding(子どもの内面を洞察する)、Listen(子どもの言葉に耳を傾ける)」を基本姿勢とし、子どもからの自発的な表現を引き出すことを目的とした介入法である。Hanen Program は INREAL アプローチと類似した介入法であり、「OWL:子どもの行動を観察する(Observe)・子どもからの自発表現を待つ(Wait)・子どもの発話に耳を傾ける(Listen)」を基本姿勢とした家族支援のプログラムである。グループによる養育者への指導や、ビデオフィードバックによる支援を行い、言語に遅れのある幼児に対し養育者を介した支援を行う。ASD 児を対象としたプログラム、Hanen Program More Than Words⁸⁾も開発され、介入により養育者の幼児への応答性が高まることが示されている⁹⁾。また、ふれあいペアレントプログラムは、ASD 幼児を含む社会的コミュニケーションに遅れを呈する児向けのプログラムであり、言語の基盤となる社会的相互交渉や共同注意、感情の共有等に焦点をあてた心理教育的プログラムである。これらのプログラムはいずれも、幼児の自発的な発信に対して養育者が敏感に応答することや、養育者が幼児の自発的行動を引き出すことをターゲットとしている。

行動理論を取り入れたアプローチとしては、Milliue Language Teaching(MLT)⁵⁴⁾や Early Start Denver Model(ESDM)³⁹⁾が挙げられる。従来の応用行動分析を用いたアプローチでは、学習課題を提示し、正しい応答に対して報酬を与える不連続試行訓練(Discrete Trial Training: DDT)が中心であったが、近年は共同のかかわりや共同注意を基盤とし、より自然な社会的文脈を活用したアプローチが増えてきている。MLT においては、自然な場面で幼児に言語模倣を促すことによって、拡張模倣を行うなど、応用行動分析の考え方を取り入れながら、幼児の注意に合わせた働きかけを行っている。自然な状況における動機やきっかけを目標行動の起点とする RPT(基軸行動訓練)を取り入れた ESDM では、他者との遊びを中心とするかかわりの中で、共同注意や言語発達を促している。

また、ASD 児者への包括的アプローチである TEACCH® Autism Program においては、養育者と協働し、構造化された指導法の枠組みを活用しながら、家庭において、幼児の社会的コミュニケーションを促進する Family Implemented TEACCH for Toddlers(FITT)⁴⁷⁾が開発されている。このように行動分析を活用

したアプローチや包括的なアプローチにおいても初期言語・コミュニケーション発達支援においては、自然な場面における相互交渉に重点が置かれている。

また、言語発達と象徴遊びの関連性に注目をしたプログラムも開発されている。言語発達と象徴遊びは、どちらも表象機能が関連していることから、両者の関連が注目されている。初語や多語文の出現時期と象徴遊びの出現時期の関連や、象徴遊びの連鎖と語りの発達との関連が指摘されている^{24, 55)}。ASD 幼児は象徴遊びのレパートリーがTD児と比べて乏しいこと⁴⁸⁾や、象徴遊びの連鎖の発達に制限があること²⁶⁾が指摘されており、ASD 幼児を対象に象徴遊びを取り入れた言語・コミュニケーション発達への介入法が検討されている。象徴遊びを取り入れたプログラムとして、JASPER プログラムが挙げられる²³⁾。JASPER は象徴遊び、共同注意、情動調整、他者との関わり合いに焦点を当てたプログラムであり、パイロット研究において、介入により幼児の発語が伸びたことが報告されている¹⁴⁾。また、語連鎖から語りといったより高次の言語発達段階の幼児へは、スクリプトを活用して象徴遊びの連鎖や語りの発達を促す介入法も検討されている^{37, 53)}。

● V. 今後の課題

初期言語発達段階の幼児においては、共同のかかわりや共同注意を基盤とした養育者との言語的相互交渉が重要となる。共同のかかわりや共同注意に困難が指摘される ASD 幼児においてもこれらのかかわりが後の幼児の言語発達を予測することが研究知見より示唆されている。ASD 児を対象とした介入においては、専門家による児への直接的な介入のみではなく、養育者に対する心理教育や、ビデオフィードバック等、養育者を介在した介入がなされており、日常場面における自然な相互交渉に焦点を当てた介入が多い。上記で述べてきた養育者との相互交渉を活用した言語・コミュニケーション発達を促す介入法では、養育者に対し、言語入力の方法や共同注意を基盤とした関わり方などを教示している。これらのプログラムの内容を見ると、語彙や語連鎖の獲得、模倣や共同注意といった乳幼児期の初期の発達に焦点を当てたものが多く、語連鎖以降のより高次の言語発達を促進する方略についてはほとんど扱わ

れていない。吉田ら⁵³⁾のようにスクリプトを活用した介入や、遊びや発話のつながりを促す言語入力の方略といったより発展的な内容について検討することも今後必要であろう。これらの内容が含まれていくことで、初期の語彙獲得や統語発達段階から、より高次の言語発達段階へ移行する際の足場かけとなると考えられる。

文 献

- 1) Adamson, L. B., Bakeman, R., Suma, K., and Robins, D. (2019): An expanded view of joint attention: Skill, engagement, and language in typical development and Autism. *Child Development*, 90, 1-18.
- 2) アメリカ精神医学会. 高橋三郎・大野裕. (2013): 精神疾患の診断・統計マニュアル. (DSM-5). 医学書院.
- 3) Baron-Cohen, S. (1989): Joint-attention deficits in autism: Towards a cognitive analysis. *Development and Psychopathology*, 1, 185-189.
- 4) Baron-Cohen, S., Boldwin, D. A., and Crowson, M. (1997): Do children with autism use the speaker's direction of gaze strategy to crack the code of language. *Child Development*, 68, 48-57.
- 5) Boldwin, D. A. (1991): Infant's contributions to the achievement of joint reference. *Child Development*, 62, 875-890.
- 6) Bottema-Beutel, K., Yoder, P. J., Hochman, J. M., and Watson, L. R. (2014): The role of supported joint engagement and parent utterances in language and social communication development in children with autism spectrum disorder. *Journal of Autism Developmental Disorder*, 44, 2162-2174.
- 7) Brooks-Gunn, J., and Lewis, M. (1981): Infant social perception: Responses to pictures of parents and strangers. *Developmental Psychology*, 17, 647-649.
- 8) Carpenter, M., Nagell, K., and Tomasello, M. (1998): Social cognition, joint attention, and communicative competence from 9 to 15 months of age. *Monographs of the society for research in child development*, 63, 1-143.
- 9) Carter, A. S., Messinger, D. S., Stone, W. L., Celimli, S, Nahmias, A. S., and Yoder, P. (2011): A randomized controlled trial of Hanen's 'More Than Words' in

- toddlers with early autism symptoms .
Journal of Child Psychology and Psychiatry,
741-752.
- 10) Chris, S., and Katharine, R. L. (2002) :
Caregiver attention-focusing and children's
attention sharing behaviors as predictors of
later verbal IQ in very low birth weight
children. Journal of Child Language, 29, 3-22.
 - 11) Fivush, R., and Fromhoff, F. A. (1988) :
Style and structure in mother-child
conversations about the past . Discourse
Processes, 11, 337-355
 - 12) Franco, F., and Butterworth, G. (1996) :
Pointing and social awareness : Declaring
and requesting in second year. Journal of
Child Language, 23, 307-336.
 - 13) Frantz, R. L. (1963) : Pattern vision in
newborn infants. Science, 140, 296-297.
 - 14) Goods, K. S, Ishijima E, Kelly Stickles,
Chang, Y, and Kasari, C. (2013) : Preschool
based JASPER intervention in minimally
verbal children with autism : Pilot RCT.
Journal of Autism and Developmental
Disorders, 43, 1050-1056.
 - 15) 秦野悦子(2007): 幼児期のことばの話し言葉の
発達. 笹沼澄子(編) 発達期言語コミュニケーション障害の新しい視点と介入理論 医学書
院, 269-288.
 - 16) Hoff, E., and Naigles, L. (2002) : How
children use input in acquiring a lexicon.
Child Development, 73, 418-433.
 - 17) 伊藤英夫(2000) : 自閉症の指さし行動の発達過
程. 児童青年精神医学とその近接領域 41, 57-70.
 - 18) 稲田尚子・神尾陽子(2008) : 自閉症スペクトラ
ム障害の早期診断への M-CHAT の活用. 小
児科臨床 61, 2435-2439.
 - 19) 神尾陽子・稲田尚子(2006) : 1歳6か月健診に
おける広汎性発達障害の早期発見における予
備的研究. 精神医学 48, 981-990.
 - 20) 一般社団法人発達障害支援のための評価研究
会(2013): PARS-TR. 自閉スペクトラム出版.
 - 21) 黒田美保・稲田尚子・内山登紀夫[監訳](2013):
SCQ 日本語版マニュアル. 金子書房.
 - 22) 黒田美保・稲田尚子[監修・監訳](2015): ADOS-
2 日本語版 マニュアル. 金子書房.
 - 23) Kasari, C., Gulsrud, A., Paparella, T.,
Hellemann, G., and Berry K. (2015) :
Randomized comparative efficacy study of
parent-mediated interventions for toddlers
with autism. Journal of Consulting and
Clinical Psychology, 83, 554-563.
 - 24) McCune, L. (2008) : How children learn to learn
language. Oxford : Oxford University Press.
 - 25) McDuffie, A., and Yoder, P. (2010) : Types of
parent verbal responsiveness that predict
language in young children with autism
spectrum disorder. Journal of Speech, Language,
and Hearing Research, 53, 1026-1039.
 - 26) 溝江唯・大伴潔(2022) : 自閉スペクトラム症幼
児と定型発達幼児の象徴遊びの発達: 遊びのレ
パートリーと連鎖に注目した縦断的検討. 発達
心理学研究, 33, 65-75.
 - 27) Mundy, P., Sigman, M. (1989) : The
theoretical implications of joint attention
deficit in autism . Development and
Psychopathology, 1, 173-183.
 - 28) Mundy, P., Sigman, M., and Kasari C.
(1990) : A longitudinal study of joint attention
and language development in autistic
children . Journal of Autism and
Developmental Disorders, 20, 115-128.
 - 29) 村上太郎・大神英裕(2007) : 乳幼児期の社会的
認知の発達 : 共同注意・言語・社会的情動を指
標に. 九州大学心理学研究, 8, 133-142.
 - 30) Naigles, L. R., Hoff-Ginsberg, E. (1998) :
Why are some verbs learned before other
verbs? Effects of input frequency and
structure on children's early verb use .
Journal of Child Language, 25, 95-120.
 - 31) Newport, E. L., Gleitman, A., and Gleitman,
L. (1977) : "Mother I'd rather do it myself :
Some effects and non-effects of maternal
speech style". Talking to children : Language
input and acquisition. Snow, C., Ferguson,
C. (eds.). New York, Cambridge University
Press, 109-149.
 - 32) 大石敬子. (2001) : 学童期の言語発達と評価.
大石敬子(編). [入門コース] ことばの発達と障
害 3 ことばの障害の評価と指導. 大修館書店,
40-55.
 - 33) 小椋たみ子(2011) : 幼児の初期語彙発達. 心理
学研究法. 誠信書房, pp.169-191.
 - 34) 大神英裕・実藤和佳子. (2006) : 共同注意-そ
の発達と障害をめぐる諸問題- . 教育心理学年
報, 45, 145-154.
 - 35) 大藪泰(2004) : 共同注意の発達と臨床. 人間化
の原点の究明. 川島書店.
 - 36) 尾崎康子(2018) : 社会的コミュニケーションが

- 気になる子の育て方がわかるふれあいペアレントプログラム. ミネルヴァ書房.
- 37) Paterson, C., and Arco, L. (2007) : Using video modeling for generalizing toy play in children with autism. *Behavior Modification*, 31, 660-681.
- 38) Pennington, L., Thomson, K., James, P., Martin, L., and McNally, R. (2009) : Effects of it takes two to talk--the hanen program for parents of preschool children with cerebral palsy : findings from an exploratory study. *Journal of Speech Language and Hearing Research*, 52, 21-38.
- 39) Rogers, S. J., and Dawson, G. (2009) : Early Start Denver Model for Young Children with Autism. New York : GUILFORD.
- 40) Scherer, N. J., and Olswang, L. B. (1984) : Role of mother's expansions in stimulating children's language production. *Journal of Psychology and psychiatry*, 27, 657-669.
- 41) Siller, M., and Sigman, M. (2002) : The behaviors of parents of children with autism predict the subsequent development of their children's communication. *Journal of Autism and Developmental Disorders*, 32, 77-89.
- 42) Siller, M., and Sigman, M. (2008) : Modeling longitudinal change in the language abilities of children with autism : parent behaviors and child characteristics as predictors of change. *Developmental Psychology*, 44, 1691-1704.
- 43) 竹田契一・里見恵子(1994) : インリアルアプローチ:子どもとの豊かなコミュニケーションを築く. 日本文化科学社.
- 44) Tomasello, M., and Barton, M. (1994) : Learning words in nonostensive contexts. *Development Psychology*, 30, 639-650.
- 45) Tomasello, M., and Farrer, M. J. (1986) : Joint attention and early language. *Child Development*, 57, 1454-1463.
- 46) Tomasello, M., Todd, J. (1983) : Joint attention and early lexical acquisition style. *First Language*, 4, 197-212
- 47) Turner-Brown, L., Hume K, Boyd, B. A., and Kainz, K. (2019) : Preliminary Efficacy of Family Implemented TEACCH for Toddlers : Effects on Parents and Their Toddlers with Autism Spectrum Disorder. *Journal Autism and Development Disorder*, 49, 2685-2698.
- 48) Ungerer, J., and Sigman, M. (1981) : Symbolic play and language comprehension in autistic children. *American Academy of Child psychiatry*, 20, 318-337.
- 49) 矢藤優子(2000) : 子どもと注意を共有するための母親の注意喚起行動:おもちゃ遊び場面の分析から. *発達心理学研究*, 11, 153-162.
- 50) 矢藤優子(2007) : 乳児と母親のおもちゃ遊び場面における注意の共有と母親の発話 : 7 か月児と12 か月児を比較して. *発達心理学研究*, 18, 55-66.
- 51) Yoder, P. J., and Warren, S. F. (1999) : Maternal responsivity predicts the prelinguistic communication intervention that facilitates generalized intentional communication . *Journal of Early Intervention*, 22, 126-36.
- 52) Yoder, P. J., and Warren, S. F. (2001) : Intentional communication elicits language-facilitating maternal responses in dyads with children who have developmental disabilities. *American Journal on Mental Retardation*, 106, 327-335.
- 53) 吉田勘人・青嶋由美・森秀明・中込昭彦・長崎勤(2019) : 「カフエ」 スクリプトを用いた自閉スペクトラム症児と仲間とのコミュニケーション支援. *教育実践学研究* 24, 37-47.
- 54) Warren, S. F., Yoder, P. J., Gazdag, G. E., Kim, K., and Jones, H. A. (1993) : Facilitating prelinguistic communication skills in young children with developmental delay. *J Speech Hearing Research*, 36, 83-97.
- 55) Westby, C. E. (2000) : A scale for assessing developmental of children's play. In Gitlin-Weiner, K., Sandgrund, A., and Schaefer, C. (Eds.), *Play diagnosis and assessment*. New York : Wiley, 15-35.
- 56) Williams, E., Reddy V, Costall A. (2001) : Taking a closer look at functional play in children with autism. *Journal of Autism and Developmental Disorders* 31, 67-77.